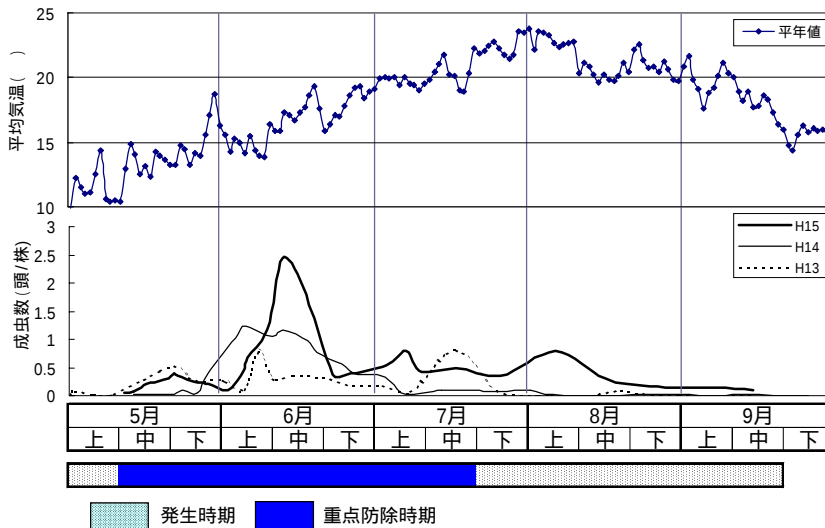


レタスにおけるナモグリバエの加害生態と防除方法

高冷地レタス栽培におけるナモグリバエの重点防除時期は5月中旬～7月中旬です。重点防除時期には加害がすぐに始まるので定植時処理剤を利用した防除が効果的です。ナモグリバエの発生は気温に左右されるので、散布剤による防除はレタス葉への被害を観察しながら実施します。



ナモグリバエの発生は温度と密接に関係し、密度は平均気温が15～20で最高となり、20を超えると激減することが報告されています。よって防除は被害の有無を観察して実施しましょう。

図1 成虫の発生消長と重点防除時期 (H13～15 県北農業研究所)

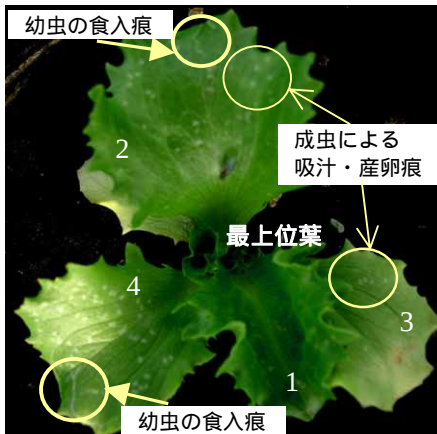


図2 被害の観察と防除適期の判断方法

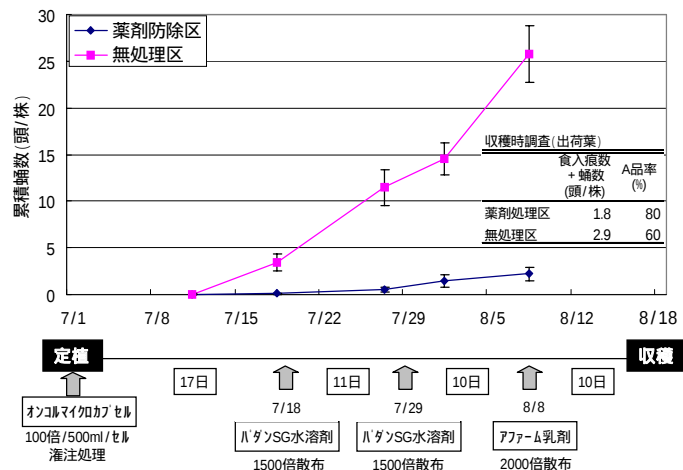
最上位葉～1枚目には被害がみられないので、**2～4枚目の葉**(結球期以降は結球外葉)における幼虫の食入痕の有無を観察します。防除適期は幼虫の食入開始初期(図の2、4葉にみられる被害程度)です。

表1 定植時処理剤の効果 (H15県北農業研究所)

供試薬剤	処理量	累積蛹数 20日後	防除価	被害
ベストガード粒剤	1g/株	1.0	93.0	-
アタラ粒剤5	0.5g/株	1.5	89.5	-
オンコルマイクログセル	100倍 500ml/セル	0.03	99.8	±
無処理		14.3	-	

表2 散布剤の効果 (H15県北農業研究所)

供試薬剤	希釈 倍数	累積蛹数 7日後 14日後	防除価	被害
ハダシSG水溶剤1500倍	1500倍	0.2 4.1	93.9	-
アファーム乳剤	2000倍	1.7 7.3	89.2	-
無処理		14.3 67.6	-	



登録薬剤が2剤のため、やむを得ずバダン SG 水溶剤の連続散布を行っています。今後登録薬剤が追加された場合においては、系統の異なる薬剤を用いたローテーション散布を行うことが望ましいです。

図3 重点防除時期における薬剤防除実証事例 (H15 一戸町奥中山)